

角谷賢二さんの  
「最先端技術とアートの出会い～ミュオグラフィーアートとは？～」を聴いて  
金光学園中学校3年 原田 大地

8月2日（日）に元日立マクセル取締役（関西大学客員教授）の角谷賢二さんの「最先端技術とアートの出会い～ミュオグラフィーアートとは？～」という講演を聴きました。角谷さんは日立マクセルで新しい磁気テープなどを開発したり、日立マクセルの取締役をしたり、関西大学客員教授などをしているすごい方です。この副題にあるミュオグラフィーとは何なのかというと、宇宙から降り注ぐ宇宙線の一種で透視力の強いミュオンという素粒子の飛跡を元に巨大物体（火山のマグマ、ピラミッドなど）を透視する最先端技術のことです。角谷さんはこのミュオグラフィーをアートで表すミュオグラフィーアート（※最先端技術をアートで表すことで、若者たちに科学を分かりやすく、面白く感じるようにする）

を広める活動を、東京大学と一緒に進めています。

私は、ミュオグラフィーをアートで表現することはすごく良い考えだと思います。なぜなら、角谷さんの言う通り作品を見るだけで視覚的に、私でも理解できたからです。アートにも科学にもあまり、興味のない私でももっといろいろな作品が見たいと思いました。そして、これからの最先端技術によって、私の好きな古代の遺跡や宇宙の謎が解き明かせるようになるのかと思うとすごくワクワクしてきました。食わず嫌いはよくないな、これからは自分で知ろうとする気持ちが必要だと改めて感じました。

次に、角谷さんのミュオグラフィーの技術についての説明がありました。ここで、角谷さんが今城塚古墳をミュオグラフィーで調べたという話を聞きました。私は、歴史が好きなので古墳の全貌が明らかになるというのは、非常に魅力的だと感じました。そして、私も何度か行ったことがある、造山古墳も死ぬまでには調べたいと言っていました。私は、ここで角谷さんは70代だということを思い出しました。しかし、若い人でも目標がない人がいるのに70代でも明確な目標があるなんてすごいと思い、見習おうと思いました。

最後に、私はこれから、食わず嫌いをせずに、思ったことはやってみることを意識し、ちゃんとした目標を持っていきたいと思いました。